



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/13 (月)	+ 500	▲ 5,900	▲ 5,400	国庫短期証券発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 100 国債補完供給 + 40,600	国債買入 + 12,100	日：国内企業物価指数 (10月)
11/14 (火)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000	源泉所得税揚げ		CP等買入 + 4,000	米：CPI (10月) 欧：ユーロ圏GDP (3Q)
11/15 (水)	トン	▲ 28,000	▲ 28,000	国債発行 (5年・個人向け)			日：GDP速報値 (7-9月) 米：PPI (10月) 欧：ユーロ圏鉱工業生産 (9月)
11/16 (木)	▲ 1,000	+ 6,000	+ 5,000				米：新規失業保険申請件数 (11月終了週) 鉱工業生産指数 (10月)
11/17 (金)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000				欧：ユーロ圏CPI (10月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2兆7,500億円減少の546兆2,400億円から始まった。その後、国債買入オペ等の要因により、9日には548兆5,900億円まで増加。週末となる10日には、国債発行・国庫短期証券発行等により、546兆9,500億円(速報)まで減少し越週となった。

無担保コールON物は週初▲0.011%から始まった。その後は横ばい圏で推移し、週末となる10日には、オファーサイドの資金放出ニーズが強まり、同金利は▲0.014%(速報)へ低下した。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.020%~▲0.005%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では、13日に国内企業物価指数(10月)、15日にGDP速報値(7-9月)の公表などがあり、海外では14日に米CPI(10月)、17日にユーロ圏CPI(10月)の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レボ>

足許GCは週初から週央まで▲0.18%~▲0.15%のレンジで取引された。短国の入札が続いた週後半は上昇し、▲0.10%台前半が出合いの中心となった。

SC取引は2年439~454回債、5年149~162回債、10年350~372回債、20年180~186回債、30年65~80回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010

<CP>

今週の入札発行総額は約7,000億円で、週間償還額5,200億円を上回った。発行市場は石油や小売り等で大型の発行が見られたものの、発行企業数は限定的で落ち着いた展開であった。発行残高は先週末時点の26兆2,229億円から11月9日時点で26兆4,024億円に減少した。発行レートは、0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。9日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート△0.003%(前回0%)、平均落札レート0.004%(同0.023%)と按分レート、平均落札レート共に前回比で低下した。

来週の償還額は約5,200億円となっている。発行市場は大口の償還も少なく落ち着いた展開を予想する。発行レートは、金融政策変更の警戒感等からレート水準が定まりにくい展開を予想する。

<TDB>

9日の6M(1193回債)の入札は、最高落札利回り▲0.1502%(前回債▲0.1494%)、平均落札利回り▲0.1623%(前回債▲0.1674%)となった。

10日の3M(1194回債)の入札は、最高落札利回り▲0.1917%(前回債▲0.1805%)、平均落札利回り▲0.1980%(前回債▲0.1875%)となった。

来週は16日に1Yの入札、17日に3Mの入札が予定されている。